

読解学習における自律学習支援を目指した協働学習 —活動を中心にしたタスクに関する調査報告—

近藤 幸子

要 旨

読解学習において効果的な自律学習に繋がる手段を考える材料になるように、筆者は、担当した 2021 年度春学期補講日本語 8 読むクラス（上級読解クラス）で学習者主体の協働学習による読みのタスクを行い、どのような効果が見られるかを調査した。調査結果からは、効果を疑問視する意見も見られたが、多様な視点に触れて文章の構成、内容、読み方などについて新たな気づきが得られる、学習自体をモニターすることに繋がる、といった効果があることも窺えた。このように、協働学習には学習効果を上げる一助になる部分があり、その後の自律学習に繋がる可能性が含まれていることが示唆された。

【キーワード】 活動 タスク 協働学習 自律学習

Supporting Autonomous Learning in Reading through Cooperative Learning: Survey report on tasks centered on activities

KONDO Yukiko

[Abstract] This study reports on cooperative learning tasks led by learners in an advanced reading class, and investigates what kind of effects were seen in order to provide tangible means to think about effective autonomous learning techniques. The results show that even though some questioned the effectiveness, learners were able to monitor their learning by thinking about the text from different perspectives which helped them gain new insights into the composition, content, and reading of the text. This suggests that cooperative learning can contribute to improving the learning effect, and that it may lead to subsequent autonomous learning.

[Keywords] Activities, tasks, cooperative learning, autonomous learning

1. はじめに

読解学習においてどのように力を向上させればよいかを認識するのは、学習者にとって容易ではないように見受けられる。実際に、読む力が伸びているかどうかよくわからない、といった声も聞かれる。そのような学習者の読む過程からは、多様な文章に対応して自分の読み方をモニターしたりコントロールしたりすることに慣れていない様子が観察されることがある。こうしたモニタリングやコントロールが不十分であると、文章を読む際に意識すべき点や不足している点などを意識化できない可能性がある。このことは、前述した、読解力を向上させていく方法が認識しづらいことに繋がっていると推測される。

こうした状況を鑑み、筆者は、読解においてモニタリングやコントロールをすることに気づき、慣れる機会を授業でより多く設けようと考えた。そこで、担当した2020年度秋学期補講日本語8読むクラスで、自分で選んだ文章において自分の読解における問題点を検討し、成果と感想をまとめるという課題を与えた。筆者はこの課題から、学習者同士で読解における問題点を検討すれば、より多様な気づきが得られ、自分の読み方をさらに振り返る機会となるのではないかと考えた。そこで、次に担当した2021年度春学期補講日本語8読むクラスでは、協働学習による読みの活動を行うことにした。本稿ではこの活動を活動タスクと呼ぶこととする。

自律学習とは、「学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立化せず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習」(国立国語研究所1998)である。本稿で述べる活動タスクは、実施する過程において学習者の自律学習を支援していると考えられる。では、授業を離れた際の自律学習も支援する可能性はあるのだろうか。そして、活動タスクで得た気づきや学びは、その後の学習者の読解力の向上を支えることができるのだろうか。このような疑問に基づき、活動タスクにおいて学習者が得た気づきや学びと、コースの終了後の学習者の読みに対する関わり方を調査することにした。

2. 調査の目的

本稿では、当該クラスにおける活動タスクに関する調査の結果と考察を報告する。調査の具体的な目的は以下の3点である。

1. 活動タスクにおいてどのような気づきや学びが得られるか。
2. 活動タスクで得た気づきや学びは、その後の学習者の読解力の向上を支えることができるか。
3. 活動タスクを行うことは、授業を離れた際に自律学習を支援するか。

3. 調査協力者

当該クラスの受講者5名のうち、活動タスクに参加し、調査に同意して協力が得られた学習者4名が調査協力者となった。内訳は、全員中国語母語話者で、男性2名、女性2名である。実施した5回の調査において協力者に変動があったため、各々の調査結果の中で再度協力者について述べる。

当該クラスの受講者を対象としたのは、当該クラスが「読む」のクラスにおいて最上のレベルのクラスで、再受講が可能ではあるものの、受講しない場合は自分で学習する必要が出てくる可能性が高いため、また、活動タスクに求められる日本語の力が十分にあると推測されたためである。

4. 調査内容

当該クラスは4月13日から6月22日まで、週に1回、計10回行われたコースである。授業内容は表1の通りで、Web会議システムであるZoomと学習管理システムであるmanaba（以下manabaと記載）を使用した。課題、振り返り、アンケート調査などの提出はmanabaを通じて行った。

授業のスケジュールは表1の通りである。主な内容は、ストラテジーや読むために必要な知識の学習、及び、様々なジャンルの文章の精読や速読であった。それらと並行して、活動タスクを2種類実施した。各々活動タスク1、活動タスク2とする。学習者には、前述した主な学習内容が活動タスクを行う際に参考になることを折に触れて伝え、活動タスクに対する動機づけを高めるようにした。

調査は次の5つについて行った。

1. 活動タスク2（1回目）における振り返り（1）
2. 活動タスク2（2回目）における振り返り（2）
3. 活動タスク2（3回目）における振り返り（3）
4. 事後アンケート1（コース終了時から約1か月半後）
5. 事後アンケート2（コース終了時から約2か月半後）

上記1、2、3は、学習者が活動タスクでどのような気づきや学びを得たかを振り返ることができるように、コース内の学習の一部として行った。4、5は、コース終了後の読むことへの取り組みや、授業で行った学習や活動タスクがその時点で役立っているかどうかを調べるために、コース終了後に実施した。各々の詳細を次に述べる。

表1 授業のスケジュール

回	ストラテジー・知識	読解	活動タスク	その他
1	主語をつかむ	エッセイ (速読)		
2	重要なことをつかむ	説明文 (精読)		
3	要約の練習	論説文 (精読)	活動タスク1 説明・指示	
1週、休み (ゴールデンウィークのため)				
4	文章の構成方法		活動タスク1 実施	
5	比喩表現	小説 (速読)	活動タスク2 説明・指示	復習テスト
6		エッセイ (精読)		
7	統計に関する表現	論説文 (精読)		
8	論文に使われる表現	詩 (精読)	活動タスク2 実施 (1回目) →振り返り (1)	復習テスト
9		論文 (精読)	活動タスク2 実施 (2回目) →振り返り (2)	
10	意見の主体をつかむ	論文 (精読)	活動タスク2 実施 (3回目) →振り返り (3)	

4.1 活動タスクの内容

大関・遠藤 (2012) では、「自律的な学びの支援方法として」、「学習者が個々の内容や学習方法を選択し、個別学習ができるよう」に「学習環境に働きかける」ことと、「自らの学習を内省によってモニターしコントロールしていくことを助ける」ことを挙げている。これらのことが目指せるように、2つの活動タスクでは、コメントの記入や話し合いなどを通して、他の学習者と協働する機会をできるだけ多く設けようと考えた。そのための環境を作るため、manabaにおいて学習者全員と筆者が自由に文章を読んでコメントなどの記入ができるように設定した。そして、学習者が自主的に進められるように、筆者は必要な時以外はコメントをしないようにした。なお、コメント記入には、後述するペアワークに先立って文章の内容確認を促すことも期待した。

4.1.1 活動タスク1

活動タスク1は調査の対象にはせずに、自分で文章を選ぶという自主的な学習を促すため、また、協働学習に慣れるためという位置づけで実施した。流れは図1の通りである (表1も参照)。実施後は学習者から感想を聞くに留め、次に行う活動タスク2の参考にするようにと学習者に伝えた。

活動タスク1を設けた背景には、過去の授業で話し合いなどの協働学習に慣れていない学習者がしばしば見られたことがある。そのような学習者からは、協働学習に戸惑い

を感じる様子も散見された。そこで、比較的難易度の低い活動タスクを行えば、こうした情意的な問題を多少なりとも解消し、協働学習における気づきについて考えるきっかけになるのではないかと考えた。

この趣旨を勘案し、取り掛かりやすいように、活動タスク1では背景知識がある新聞記事などの文章を選んで読むこととした。

① 授業第3回：文章を探すように指示（期限は1週間後）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が背景知識のある文章を探し、要約と感想、及び、内容を確認するために自分で作成した問題を記入して、文章とともに manaba に掲示。
② 授業第3回：コメント記入の指示（期限は第4回の授業開始前）	<ul style="list-style-type: none"> ・①に対し、教師が各々の学習者にコメント記入をする相手を指定する。 ・指定された相手の文章について学習者がコメントと問題の答えを記入。 ・学習者が上記以外の文章も読んで自由にコメントを記入。
③ 教師のコメント記入	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②に対し、教師が日本語の誤りを中心にコメントを記入。
④ 授業第4回：活動タスク1実施（発表 1人につき約10分）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が②、③を確認した上で要約と感想を発表し、作成した問題の解答を解説。これに基づいて学習者同士で意見交換を行い、感想を述べる。 ・教師がコメントと講評を行う。

図1 活動タスク1の流れ

4.1.2 活動タスク2

活動タスク2では3回の振り返り(1)、(2)、(3)を実施し、これらについて調査を行った。流れは図2の通りである(表1も参照)。活動タスク2は最終課題という位置づけで、活動タスク1や授業を踏まえ、読解の過程で自分にとって難しいと思う点を練習することを目標とした。このようなことを目標にしたのは、読解における問題点が自分にとって難しい点から生じる場合が多いと推測されたためである。そして、本稿冒頭の1でも触れたが、学習者同士で検討すれば多様な気づきが得られ、互いに自分の読み方の問題点に対するヒントを得る機会になると思われたためである。

自分にとって難しいと思う点を考える上では、資料1のA質問1にある8つの選択肢を参考にしてもらった。これらの項目は、筆者が読解を構成する項目として検討し、授業で挙げたものである。これらを参考に、学習者には自分にとって難しいと考えられる点を含む文章を探して読解にチャレンジするように指示した。

① 授業第 5 回：文章を探すように指示〈期限は第 8 回の前日 13 時〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が難しいと思う点を含む文章を探し、難しいと思う点を練習する方法を記入して、文章とともに manaba に掲示。
② 授業第 5 回：コメント記入の指示〈期限は第 8 回の授業開始前〉	<ul style="list-style-type: none"> ・①に対し、教師が各々の学習者にコメント記入をする相手を指定する。 ・指定された相手の文章について学習者がコメントを記入。 ・学習者が上記以外の文章も読んで自由にコメントを記入。
③ 教師のコメント記入	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②に対し、教師が日本語の誤りを中心にコメントを記入。
④ 授業第 8 回：活動タスク 2 (1 回目) 実施〈ペアワーク約 15 分×2 回(別の相手)〉	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②、③に基づいて、学習者がコメントを記入した学習者とペアワークを行う。ペアワークでは互いに意見やアドバイスを伝え合う。 ・教師が必要に応じてコメントする。
⑤ 授業第 8 回：振り返り(1)・コメント記入の指示〈期限は第 9 回の開始前〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が④のペアワークについて振り返り(1)を提出する。 ・教師が②とは別の相手を各々の学習者に指定する。 ・学習者が指定された相手の文章と②、③に対してコメントを記入。 ・学習者が上記以外の文章も読んで自由にコメントを記入。
⑥ 教師のコメント記入	<ul style="list-style-type: none"> ・⑤に対し、教師が日本語の誤りを中心にコメントを記入。
⑦ 授業第 9 回：活動タスク 2 (2 回目) 実施〈ペアワーク約 15 分×2 回(別の相手)〉	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑥に基づいて、学習者がコメントを記入した学習者とペアワークを行う。内容は④の活動タスク 2 (1 回目)と同様。 ・教師が必要に応じてコメントする。
⑧ 授業第 9 回：振り返り(2)記入・発表準備の指示〈期限は第 10 回の開始前〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が⑦のペアワークについて振り返り(2)を提出する。 ・学習者が次回行う発表の準備をする。
⑨ 授業第 10 回：活動タスク 2 (3 回目) 実施〈発表 1 人につき約 10 分〉	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧を踏まえて、学習者が文章の要約と練習方法、及び、感想を発表。 ・これに対して学習者同士で意見交換を行う。 ・教師がコメントと講評を行う。
⑩ 授業第 10 回：振り返り(3)記入の指示〈期限は 1 週間後〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が振り返り(3)を提出する。

図 2 活動タスク 2 の流れ

振り返り (1)、(2)、(3) は筆者が提示した質問に答える形で行った。振り返り (1)、(2) の質問は資料 1、振り返り (3) の質問は資料 2 の通りである。振り返り (1)、(2) は、1 回目と 2 回目のペアワークでの内容とそこから得た気づきに関する質問を提示した。また、振り返り (3) では、最終課題である一連の活動タスク 2 で達成できた、あるいは役立つと思った点、活動タスク 2 の方法についての感想、今後の読解学習への取り組み方などに関する質問を提示した。

4.2 事後アンケートの内容

コース終了時から約 1 か月半後と約 2 か月半後に manaba を通じてアンケート調査を実施した。前者を事後アンケート 1、後者を事後アンケート 2 とする。

事後アンケート1については、授業でアンケート調査を行うことを予告し、承諾が得られた学習者から回答を得た。内容は資料3の通りである。コース終了後の読みに対する関わり方、コースでの学習が役立っているか、今後の読解学習への取り組みなどについて、質問した。

事後アンケート2については、事後アンケート1の中で2回目のアンケート調査への協力の可否を問い、承諾が得られた学習者から回答を得た。紙幅の関係で質問項目のみ資料4に示す。事後アンケート1以後の読みに対する関わり方、及び、コース終了から時間がたっていることから、自律的に学習するために役立つ授業内容や活動タスクに対して、その時点で思うことなどについて質問した。

5. 調査結果と考察

授業で観察されたこと、及び、活動タスク2における振り返り(1)、(2)、(3)と事後アンケート1の結果を示し、考察する。

5.1 授業で観察されたこと

学習者は、文章をほぼ的確に理解し、理解に誤りがある場合でも、他の学習者や筆者からのヒントによって修正することができた。理解に基づいた意見や感想も適切な内容だった。コース開始前に行ったアンケートによると、まとめる力や速読の力を向上させたいという希望が複数見られた。コース終了時には、開始前に比べると要約や速読に慣れ、一定の向上があったように見受けられた。

活動タスク1,2においては積極的に文章を選んでいった。また、他の学習者を選んだ、自分が読んだことのないような分野の文章も、意欲的に理解しようと試みていた。コメントの記入やペアワークの際は相手の意見を尊重しながら行っている様子だった。そのせいか、指定された学習者以外の文章にはコメントを記入しない場合や、突き詰めて話し合っていない場合も散見された。

活動タスク1では、背景知識のある文章を扱ったため、理解しやすく説明もしやすかったようだ。一方で、知識に頼って理解しようとする正確に読めない可能性があるので気をつけたい、という感想が聞かれるなど、自分の読み方をモニターし、コントロールしようとしている様子も見られた。

活動タスク2では、協働学習自体は順調に進んだが、文章を選ぶ際、自分にとって難しいことが掴みづらいように見受けられた。ある学習者は、ペアワークを経て、初めに選んだ文章を他のジャンルの文章に変更していた。また別の学習者は、得意な分野だと思われる説明文を選んでいった。本人によると、自分にとって重要だと思ったため選んだとのことだった。

5.2 活動タスク2における振り返り(1)、(2)、(3)の結果

活動タスク2の振り返り(1)、(2)、(3)について、3名(男性2名、女性1名)から、次のような回答が得られた。

5.2.1 ペアワークで触れたアドバイスとそれに対する印象

資料1、2にある振り返り(1)、(2)の質問1、4、及び、振り返り(3)の質問1、2に対する回答の結果をまとめて表2に示す。前者は、ペアワークで触れたアドバイス、後者は達成度と役立ちに対する印象として、筆者が取り上げた。回答の8つの選択肢は両者に共通で、4.1.2で述べた、自分にとって難しいと思う点を含む文章を選ぶ際に参考にしたものである。

表2 ペアワークで触れたアドバイスとそれに対する印象

質問 選択肢	振り返り(1)		振り返り(2)		振り返り(3)	
	質問1 受けた アドバイ ス	質問4 伝えた アドバイ ス	質問1 受けた アドバイ ス	質問4 伝えた アドバイ ス	質問1 達成で きた点	質問2 今後役 に立つ と感じ た点
1. 言葉の意味に関すること (語彙・表現、指示表現など)			1		1	1
2. 文の意味に関すること (文法、主語・述語など)					1	1
3. 文章の構成に関すること (接続表現、段落の内容、文章の構成・流れ、 重要な部分など)	1	1	1		2	2
4. 文章の内容に関すること(抽象性と具体性、 事実と意見の区別、文脈の内容など)	1	1	1		2	2
5. 文章の背景に関すること (内容に関する背景知識、筆者の立場など)		1	1		1	
6. 文章のジャンルに起因すること (例：論説文→筆者の意見と自分の意見の区別 ができなくなる、小説→登場人物の心情が読み 取れないなど)		1		1	1	1
7. 読み方に関すること (理解できるまでに読む回数・速さ・順序、推測・ 予測、全体または細部に対する注目など)	1	2	1	2	1	1
8. その他	1 ^{**}					

*数字の単位：人

※回答の文(原文のまま)：・試験に辞書を使えない時、わからない言葉があれば文の前後関係に注目し、意味を推測する。・主旨をつかめる方法を探す。

表2を見ると、質問1と質問4の数字に異なる部分がある。これは、忘れた場合があるというだけでなく、伝える側がアドバイスをしたと誤っていても聞く側がそれをアドバイスとして受け取っていない、といった場合や、逆に、伝える側がアドバイスをしたと誤っていなくても聞く側がアドバイスとして受け取った、といった場合もあるためだと推測される。したがって、この数字はそのまま受け取ることはできないと思われる。しかし、相対的には次のような結果が見られた。

受けたアドバイスは、選択肢3、4、7が多かった。それに呼応するように、達成できた点としては、選択肢3と4が多かった。また、アドバイスとして聞いていなくても、達成できたと感じている項目も見られた。そうした項目の中の選択肢1、2については、わざわざアドバイスをしない、アドバイスをされなくても自分で気づきやすい、といったことが推測される。

5.2.2 ペアワーク・授業における気づきと感想

表3には、資料1、2にある振り返り(1)、(2)に共通した質問2、3、5、6、及び、振り返り(3)の質問3に対する回答がある。前者は活動タスク2において得た気づきの一端を、後者は活動タスクにおけるペアワークに対する感想を表している。また、振り返り(3)質問4はペアワークも含めた授業の全体から出てきた今後の抱負として捉えることができる。

表3の振り返り(1)、(2)における下線部を見ると、質問2からは、文章のジャンルに対する意識が生じる、読み方や練習方法を意識する、といった気づきが見られた。一方で、波線部のように、読む目的によって練習方法が異なるという、実際に読む場面を想定した気づきも見られた。質問3では、アドバイスを受けて段落のまとめについて気づいた様子が窺える。質問5では、アドバイスを伝えることが自分にも質問を投げかけるきっかけになるという気づきや、読み方に関する気づきを得た様子が見られた。質問6では、活動タスク1で行った問題を作る方法が理解に役立ったという回答があった。このように、振り返り(1)、(2)からは、読み方のモニタリングに関する気づきが見られた。

振り返り(3)の質問3については、下線部のように、様々な視点から自分では気づかないようなことに気づくことができる、表現力が鍛えられる、楽だといった、肯定的な感想が見られた。一方で、波線部のように、教師の参加が少ないことに対し、ある程度は楽しいといった、全面的には肯定していないような感想も見られた。また、質問4にはどのような種類の文章をどう読むかが具体的に書かれており、自分なりに課題を見つけている様子が窺える。

表3 ペアワーク・授業における気づきと感想

質問内容		振り返り (1)	振り返り (2)
質問2 選んだ文章の妥当性		<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ文章と練習方法は妥当だと思う。<u>練習方法は目的によって異なる</u>。例えば、単に興味として日常生活に使える日本語の知識を増やすか、試験を目指して練習するかという目的を考える必要がある。 ・ほぼ妥当だと思いますが、もっと具体的な読み方を考えておくべきだと思います。 ・クラスメートの意見を聞いた後、練習方法について、もっと絞った方がいいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ文章は小説に限らず、他のジャンルの文章 / 文学作品も重要だと思う。 ・妥当だと思いました。 ・私は文章の構成や書き方などを勉強になりました。
質問3 意見 (アドバイス) を受けて新たに気づいたこと		<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成に関する、<u>段落のまとめ</u>という質問を追加したいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。
質問5 アドバイスを伝えることで気づいたこと		<ul style="list-style-type: none"> ・各段落の要点をつかむこと ・自分に質問を投げかけてみるのは良い方法だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の話や感情などしっかり読めば、<u>文章の中心をつかまれる</u>かもしれません。
質問6 その他に気づいたこと		<ul style="list-style-type: none"> ・今回の練習は、<u>自分が問題を作る方法を通じて、出題者の意図をもっと理解</u>できました。 	
質問内容		振り返り (3)	
質問3 話し合いという方法に対する感想	ペアワークなどの話し合いの重視について	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士の話し合いを重視し、特にアドバイスも参考しました。<u>色々な立場の観点や考えがあれば、自分で解けない問題はすらすらと解決</u>されます。 ・普段自分では気づかないような問題に気づくことができますし、<u>他人の問題を探すことで自分を振り返る</u>こともできます。 	
	教師の参加が少ないことについて	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士は率先して検討を始めれば、<u>学習能力を鍛えながら読解力を向上させる効果があるはずだと信じています</u>。 ・表現力を鍛えるためにも、<u>ある程度は楽しい方法だ</u>と思います。 ・学生同士で自分が感想を述べる時間があるのはもっと<u>楽な雰囲気</u>がが感じられます。 	
質問4 今後の読解学習に対する取り組み方		<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌 (記事、評論入り) の中から読解学習に取り組んでいきたいとします。 ・まず、<u>もっと日本語の記事を読み、さらに読解力を高める練習をして、授業で見つけた不足のところを補います</u>。 ・説明文を基づいて、<u>いろんな種類の文章の表現や伝え方を学びたい</u>と思います。 	
質問5 その他に気づいたことなど		(回答なし)	

* 回答の文は原文のまま。 * 下線、波線は筆者による。

5.3 事後アンケートの結果

5.3.1 事後アンケート 1

表 4 事後アンケート 1 (約 1 か月半後) における読みの状況

質問内容	質問 1		質問 5
質問 1 日本語の文章を読んだか・ 読んだ文章の種類と回数 質問 5 今後読みたい日本語の文章	読んだ 4 人 読まなかった 0 人	回数 (回答合計)	人数・理由 (括弧内は人数)
	論文	108 回	3 人・研究のため (2)
	論文以外の説明文・ 論説文	5 回	1 人
	エッセイ	2 回	0 人
	小説	0 回	1 人・日本語の文章の書き方を 理解するため (1)
	新聞・雑誌などの記事	13 回	1 人
	さまざまな情報	10 回	2 人・日常生活によく使う 語彙を習得するため (2)
	日本語学習のための教材・ 問題集など	8 回	2 人
その他	0 回	0 人	
質問 2 日本語の文章を読む回数 の変化	増えた 3 人 変わらない 1 人 減った 0 人 増えた・読む意欲が高まったからである ・読むスピードが上がりました。 ・研究計画書を書くため、数多くの先行文献を読む必要がある。 しかも、10 月の入試は日本語を読む能力に対するテストだと思うから、 授業で習ったコツをできるだけ活用したい。 変わらない・普段も論文読んでいます		
質問 3 授業で学んだことの中で今 も役に立っていること	ある 4 人 ない 0 人 ある・色々な文章の効果的な読み方 (読む時間が減る、文章の中心を早く把握 できる効果) ・リーディングスキルと一般的な語彙 ・文章を要約する能力が向上しました ・文章全体への把握。要約の方法。説明文の勉強。		
質問 4 質問 3 で答えた中で、特に 学生同士の活動によって得 られたと思うこと	・自分の思いや意見を相手がわかりやすくして説明すること ・特にありません。 ・(回答なし) ・話し合う時、なぜ自分の考えは相手と違うのかを分かりました。 <u>相手の難しい文章を読む方法も勉強しました。</u>		
質問 6 今後の読解学習に対する取 り組み方	・今まで学んだ文章の量を上げることで、今後読解に対する興味を高めたいと 思う ・できるだけ丁寧に読み、わからないことは調べてみると思います。 ・読むの早さ ・論文、社会的な文章、本を読むとき、意識的に要約し、作者が最も伝えたい ことを掴みたい。		
質問 7 2 回目の調査参加	できる 1 人 できない 3 人		

* 回答の文は原文のまま。 * 下線は筆者による。

約1か月半後(8月4日～13日)にmanabaを通じて4名から回答を得た。協力者の内訳は、男性2名、女性2名(内1名は活動タスク1には参加したが活動タスク2に参加せず、振り返り(1)、(2)、(3)に回答していない学習者)である。回答をまとめて表4に示す。

表4の質問1と5からは、論文や日常的に触れる文章に対する必要性が高い様子が窺える。また、質問2を見ると読む回数は全体的に増えている。読むスピードが上がったという回答も見られ、5.1で述べた授業内での筆者の印象が維持されていたようである。質問3を見ると、授業で読み方を学べたことが役に立っているようである。質問4では活動タスクで気づいた表現の仕方や読み方を一定期間維持している様子が窺える。また、質問6では、自分にとって効果的だと思われる方法が理解できている様子が窺える。このような自分で考えた方法は、授業を離れても自律学習を支援する可能性があると推測される。

5.3.2 事後アンケート2

約2か月半後(9月16日)に1名から回答が得られた。個人が特定されることを避けるため、回答を全て掲載することは差し控える。資料4にある質問4の回答からは、活動タスクに対して、リラックスできる、自主的に考えようとする意識が生まれる、気づきを得たり意欲が喚起されたりする、などの肯定的な印象が見られた。一方で、率直に言いづらい、教師と話した方が役立ちそうだといった否定的な印象も見られた。

6. まとめ

調査結果から、今回の活動タスクの効果として、次のような点が考えられる。

1. 文章を自分で選ぶことの効果

文章のジャンルに対する意識が生まれ、そこからジャンルに応じた読み方を考えようとする意識が生じている様子が窺えた。こうした意識は様々なジャンルの文章を効果的に理解することに繋がると推測される。

2. 他者とペアワークなどで話し合うことによる効果

1) 他者の視点に触れることによる効果

他者の視点によって文章の構成、内容、読み方などについて新たな気づきを得られ、読解の助けになった様子が窺えた。但し、こうした気づきは話し合い以外の学習に基づいて生じた部分もあると推測されるため、基礎となる学習は欠かせないだろう。他方、他者にアドバイスなどを伝える行為は、自分の読み方をモニターする行為として自分自身に対しても応用できる可能性が窺えた。こうしたモニタリングは読みをコントロールし、内容の理解、ひいては読解力の向上に繋がると

推測される。

2) 話すこと自体による効果

言葉にすることで様々な学びが意識化されると推測される。また、文章の内容の説明や要約などの場面で、説明する力や要約する力の向上に繋がることが期待できる。

3) 情意面での効果

リラックスして学習に取り組める、自律的な解決を試みる、他者の意欲を感じて自分の意欲も喚起される、などの効果が期待できる。これらは学習の促進に繋がると思われる。

以上のような効果は、学習者が自分に合った学習方法を選び、学習自体をモニターすることに繋がり、授業を離れても、直接的あるいは間接的に自律学習を支援する可能性があると考えられる。

一方で、課題となる点も2つほど見られた。

1. 課題の出し方

活動タスク2において、自分が難しいと思う点を含む文章を選ぶのは容易ではなかったようだ。これに関連し、自分にとって必要な文章を読むという意思や、実際の場面では目的によって読み方が異なるといった意見も見られた。単に難しいと思う点の克服を目指すだけでなく、学習者に応じた自律学習を考慮して課題を示す必要があると考えられる。

2. ペアワークなどの話し合いに対して肯定的でない印象が見られたこと

少数ではあったが、話し合いの意義を疑問視する意見が見られた。話し合いを行う際は、意義と期待される効果をよく説明し、率直に話し合えるような雰囲気を作る、学習者の状況に応じて内容や方法を検討して話し合いが行き詰まらないような配慮をする、といった対応が必要になると考えられる。そうした中で、学習効果を学習者なりに実感してもらうことが重要だと思われる。

以上を踏まえ、今後も自律学習を支援する学びのあり方を考えていきたい。

参考文献

大関由貴・遠藤郁絵 (2012) 「学習者から学ぶ『自律的な学び』とその支援」『日本語教育』152号：61-75

国立国語研究所監修 (1998) 『日本語教育重要用語 1000』バベル・プレス

資料1 振り返り(1)、(2)の質問

A. 意見やアドバイスを聞く側として	
質問1	次のどの点について、クラスメートから意見やアドバイスを聞きましたか。 1. 言葉の意味に関すること(語彙・表現、指示表現など) 2. 文の意味に関すること(文法、主語・述語など) 3. 文章の構成に関すること(接続表現、段落の内容、文章の構成・流れ、重要な部分など) 4. 文章の内容に関すること(抽象性と具体性、事実と意見の区別、文脈の内容など) 5. 文章の背景に関すること(内容に関する背景知識、筆者の立場など) 6. 文章のジャンルに起因すること(例: 論説文→筆者の意見と自分の意見の区別ができなくなる、小説→登場人物の心情が読み取れないなど) 7. 読み方に関すること(理解できるまでに読む回数・速さ・順序、推測・予測、全体または細部に対する注目など) 8. その他
質問2	クラスメートの意見を受けて、最終課題(自分が難しい、不得手だと思う点を練習するための課題)として選んだ文章と練習方法は妥当だと思えましたか。
質問3	クラスメートの意見を受けて、新たに気づいたこと(他に練習できる点や練習方法など)があったら、書いてください。
B. 意見やアドバイスを伝える側として	
質問4	次のどの点について、クラスメートに意見やアドバイスを伝えましたか。 [選択肢は資料1質問1に同じ]
質問5	クラスメートに意見やアドバイスを伝えることによって、自分の学習のために新たに気づいたことがあったら、書いてください。
C. 全体として	
質問6	以上の他に、気づいたこと、書きたいことなどがあったら、何でも書いてください。

資料2 振り返り(3)の質問

質問1	一連の最終課題において、達成できたと思う点はどれですか。 [選択肢は資料1質問1に同じ]
質問2	一連の最終課題において、今後役に立つと感じた点はどれですか。 [選択肢は資料1質問1に同じ]
質問3	方法について質問します。理由とともに答えてください。 1) 学生同士の話し合いを重視しましたが、どうでしたか。 2) 教師があまり話し合いに入らないのは、どうでしたか。
質問4	今後、どのように読解学習に取り組んでいきたいですか。
質問5	以上の他に気づいたこと、書きたいことなどがあったら、何でも書いてください。

資料3 事後アンケート1の質問

質問1	授業終了後から今までに日本語の文章を読みましたか。 読んだ場合、どんな文章を何回ぐらい読んだか、教えてください。
質問2	授業を受講する前と受講した後を比べると、日本語の文章を読む回数は変わりましたか。その理由も教えてください。
質問3	授業で学んだことの中で、今も役に立っていると思うことがありますか。 ある場合、どのようなことですか。
質問4	質問3で「ある」と答えた人に質問します。質問3で答えたことの中で、特に学生同士の活動(話し合いなど)によって得られたと思うのは、どのようなことですか。
質問5	今後どのような日本語の文章を読みたいと思いますか。理由も教えてください。
質問6	今後どのように日本語の読解学習に取り組んでいきたいと思っていますか。
質問7	場合によっては、近日中にもう1回、manabaまたはZoomでアンケート(5~15分程度)に答えていただくことができますか。

資料4 事後アンケート2の質問項目

質問1	前回の調査以降に読んだ文章とその中で読解力向上に役立っていると思う文章
質問2	質問1で回答した文章を読むときや読んだあと、工夫したこと
質問3	授業以外で自立的に読解学習を進めるために、授業で行うと役立つと思うこと
質問4	授業で行った学生同士の活動(話し合いなど)について思うこと
質問5	授業で行った学生同士の活動が日本語の文章を読むときに及ぼしている影響
質問6	この授業以外における学生同士の活動による学習経験の有無